

3 密集住宅市街地整備の目標と戦略

安全で安心して暮らせる コミュニティの息づく魅力あるまちの実現

東南海・南海地震や上町断層帯等による直下型地震の発生が危惧されるなか、こうした地震による大きな被害が予想される密集住宅市街地については、人命や財産を守るために必要となる最低限の安全性の確保を早期に図るため、建築物の不燃化・難燃化と空地の確保等を進めることにより、「**大火とならないまち**」の形成を図ることが必要である。

また、阪神・淡路大震災では倒壊による圧死が死者数の9割を占めたことなどを踏まえ、建物の倒壊や崩壊を防ぎ、地震時の圧死等を減らすとともに、避難や救助、消防活動のための経路を確保するため、「**建物が倒壊しないまち**」を目指すことが重要である。

このような「大火とならないまち」や「建物が倒壊しないまち」を目指したまちづくりを進めていくためには、古くからのコミュニティを活かし、地域の住民等と緊密に連携した取り組みが不可欠である。連携によるまちづくりが進めば、コミュニティの活性化が図られ、それが密集住宅市街地のまちづくりの更なる推進へと繋がり、その過程でコミュニティがより一層活性化するという正のスパイラルの展開が可能となる。そして、その結果として「**コミュニティが息づく魅力あるまち**」の実現を目指すことが何よりも重要である。

以上を踏まえ、大阪市の今後の密集住宅市街地整備においては、「**安全で安心して暮らせるコミュニティの息づく魅力あるまちの実現**」を目標に、各種施策が戦略的に展開されなければならない。

大火とならないまち

建物が倒壊しないまち

コミュニティが息づく
魅力あるまち